

前立腺癌治療剤

劇薬
処方箋医薬品^注

ビカルタミドOD錠80mg「ケミファ」

Bicalutamide OD

ビカルタミド口腔内崩壊錠

貯法：室温保存

使用期限：外装に表示（3年）

注）注意—医師等の処方箋により使用すること

承認番号	22800AMX00125000
薬価収載	2016年6月
販売開始	2016年6月

●禁忌（次の患者には投与しないこと）

(1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者




(2) 小児

【本薬の薬理作用に基づき、男子小児の生殖器官の正常発育に影響を及ぼす恐れがある。また、本薬の毒性試験（ラット）において、雌性ラットで子宮の腫瘍性変化が認められている。】

(3) 女性

【本薬の毒性試験（ラット）において、子宮の腫瘍性変化及び雄児の雌性化が報告されている。】

●組成・性状

販売名	ビカルタミドOD錠80mg「ケミファ」		
有効成分 (1錠中)	ビカルタミド80mg		
添加物	ヒプロメロース、カルメロースカルシウム、結晶セルロース、無水リン酸水素カルシウム、カルメロース、アスパルテーム（L-フェニルアラニン化合物）、アセスルファミカリウム、軽質無水ケイ酸、香料、フマル酸ステアリルナトリウム		
製剤の性状	白色～微黄白色の素錠		
外形	表	裏	側面
			
サイズ	直径：10 mm	厚さ：2.9 mm	重量：300 mg
識別コード	ビカルOD FCI		

●効能又は効果

前立腺癌

〈効能又は効果に関連する使用上の注意〉

- (1) 本剤による治療は、根治療法ではないことに留意し、本剤投与12週後を抗腫瘍効果観察のめどとして、本剤投与により期待する効果が得られない場合、あるいは病勢の進行が認められた場合には、手術療法等他の適切な処置を考慮すること。
- (2) 本剤投与により、安全性の面から容認し難いと考えられる副作用が発現した場合は、治療上の有益性を考慮の上、必要に応じ、休薬又は集学的治療法などの治療法に変更すること。

●用法及び用量

通常、成人にはビカルタミドとして80mgを1日1回、経口投与する。

〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉

本剤は口腔内で崩壊するが、口腔の粘膜から吸収されることはないため、唾液又は水で飲み込むこと。（「6.適用上の注意」の項参照）

●使用上の注意

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

肝障害のある患者

【本剤は肝臓でほぼ完全に代謝を受けるため、定常状態時の血中濃度が高くなる可能性がある。】

2. 重要な基本的注意

(1) 外国の臨床試験において、ビカルタミド製剤投与例でビカルタミド製剤との関連性が否定できなかった前立腺癌以外の死亡例が報告されている。そのうち心・循環器系疾患による死亡は9%未満であり、その主な死因は心不全、心筋梗塞、脳血管障害等であった。これら外国の臨床試験で報告された心・循環器系疾患による死亡率は、対照の去勢術群（16%未満）より低く、高齢者で一般に予期される死亡率の範囲内であったが、本剤を投与する場合は十分に観察を行い、慎重に投与すること。

(2) 本剤は内分泌療法剤であり、がんに対する薬物療法について十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤による治療が適切と判断される患者についてのみ使用すること。

3. 相互作用

本剤は、主として肝代謝酵素CYP3A4を阻害する。

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
クマリン系抗凝血薬 ワルファリン等	クマリン系抗凝血薬の作用を増強するおそれがある。プロトロンビン時間を測定する、又は、トロンボテストを実施するなど、血液凝固能検査等出血管理を十分に行いつつ、凝固能の変動に注意し、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。	<i>in vitro</i> 試験で蛋白結合部位においてワルファリンと置換するとの報告がある。
トルプタミド	トルプタミドの作用を増強するおそれがある。但し、相互作用に関する報告症例はない。	本剤は、 <i>in vitro</i> 試験でトルプタミドの代謝を阻害した。
デキストロメトルファン	デキストロメトルファンの作用を増強するおそれがある。但し、相互作用に関する報告症例はない。	本剤は、 <i>in vitro</i> 試験でデキストロメトルファンの代謝を阻害した。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
主にCYP3A4によって代謝される薬物 カルバマゼピン、シクロスポリン、トリアゾラム等	主にCYP3A4によって代謝される薬物の作用を増強するおそれがある。但し、相互作用に関する報告事例はない。	本剤は、 <i>in vitro</i> 試験でCYP3A4によるテストステロン6β-水酸化酵素活性を阻害した。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用 (頻度不明)

- 1) **劇症肝炎、肝機能障害、黄疸**：劇症肝炎、AST (GOT)、ALT (GPT)、Al-P、γ-GTP、LDHの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的な肝機能検査の実施を考慮するとともに、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 2) **白血球減少、血小板減少**：白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 3) **間質性肺炎**：間質性肺炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 4) **心不全、心筋梗塞**：心不全、心筋梗塞があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
内分泌	乳房腫脹、乳房圧痛、ほてり
生殖器	勃起力低下
肝臓	AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、Al-P 上昇、γ-GTP 上昇、LDH 上昇
泌尿器	腎機能障害 (クレアチニン上昇、BUN 上昇)、血尿、夜間頻尿
皮膚	そう痒、発疹、発汗、皮膚乾燥、脱毛、多毛、光線過敏症
精神神経系	性欲減退、頭痛、めまい、不眠、抑うつ状態、傾眠
循環器	心電図異常
消化器	便秘、食欲不振、下痢、悪心、嘔吐、口渇、消化不良、鼓腸放屁、腹痛
筋・骨格系	胸痛、骨盤痛
過敏症	血管浮腫、蕁麻疹
その他	貧血、浮腫、総コレステロール上昇、中性脂肪上昇、倦怠感、無力症、疲労、高血糖、体重増加・減少、さむけ

5. 高齢者への投与

ピカルタミド製剤の臨床試験成績から、高齢者と非高齢者において血漿中濃度及び副作用の発現に差はみられていない。しかし、一般に高齢者では、心・循環器系の機能が低下していることが多く、心・循環器系の有害事象の発現頻度が若年層より高いため、高齢者への投与の際には患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

6. 適用上の注意

(1) 服用時：

- 1) 本剤は舌の上のせて唾液を浸潤させ舌で軽くつぶすことにより崩壊するため、水なしで服用可能である。また、水で服用することもできる。
- 2) 本剤は寝たままの状態では、水なしで服用させないこと。

(2) 薬剤交付時：

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

7. その他の注意

外国において、呼吸困難が発現したとの報告がある。

●薬物動態

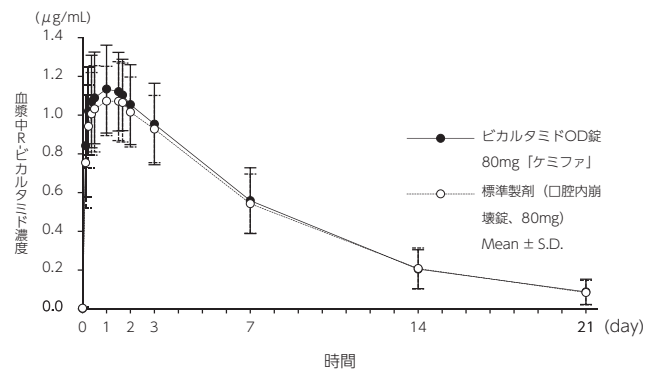
生物学的同等性試験¹⁾

ピカルタミドOD錠80mg「ケミファ」と標準製剤をクロスオーバー法により、それぞれ1錠（ピカルタミドとして80mg）を健康成人男子に絶食単回経口投与（水ありで服用（n=23）及び水なしで服用（n=22））して活性体であるR-ピカルタミドの血漿中濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log (0.80)～log (1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

(1) 水あり

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (μg・hr/mL)	Cmax (μg/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
ピカルタミドOD錠 80mg「ケミファ」	237.54 ±65.16	1.1746 ±0.2271	27.8 ±13.1	118.67 ±30.45
標準製剤 (口腔内崩壊錠、 80mg)	227.64 ±55.20	1.1333 ±0.2010	28.5 ±15.7	117.64 ±34.57

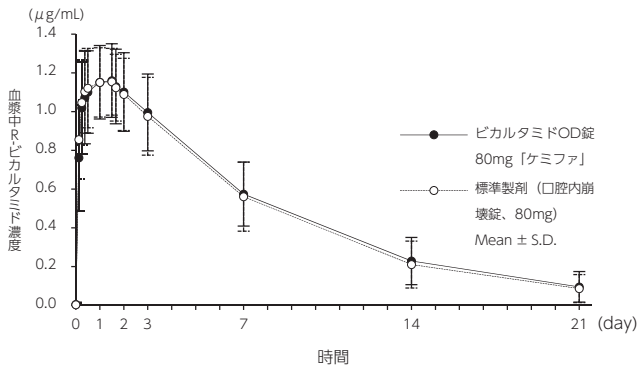
(Mean ± S.D., n = 23)



(2) 水なし

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (μg・hr/mL)	Cmax (μg/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
ピカルタミドOD錠 80mg「ケミファ」	246.38 ±60.56	1.2106 ±0.2130	27.2 ±12.2	123.63 ±46.11
標準製剤 (口腔内崩壊錠、 80mg)	240.84 ±61.83	1.2051 ±0.1901	28.1 ±12.4	118.28 ±42.60

(Mean ± S.D., n=22)



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

●薬効薬理²⁾

ピカルタミドは、非ステロイド性抗アンドロゲン剤であり、アンドロゲン受容体へのアンドロゲンの結合を競合的に阻害することにより、抗アンドロゲン作用を示し、前立腺細胞の増殖を抑制する。

●有効成分に関する理化学的知見

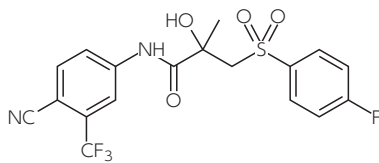
一般名：ピカルタミド (Bicalutamide)

化学名：(RS)-N-[4-Cyano-3-(trifluoromethyl)phenyl]-3-[(4-fluorophenyl)sulfonyl]-2-hydroxy-2-methylpropanamide

分子式：C₁₈H₁₄F₄N₂O₄S

分子量：430.37

構造式：



性状：ピカルタミドは白色～淡黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。

本品はアセトン又はN,N-ジメチルホルムアミドに溶けやすく、アセトニトリル又はメタノールにやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。

本品のメタノール溶液(1→100)は旋光性を示さない。

融点：190～195℃

●取扱い上の注意

安定性試験³⁾

PTP包装を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6カ月)の結果、ピカルタミドOD錠80mg「ケミファ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

●包装

ピカルタミドOD錠80mg「ケミファ」：30錠 (10錠×3)
100錠 (10錠×10)

●主要文献

- 1) 富士化学工業株式会社：生物学的同等性に関する資料(社内資料)
- 2) 高折修二ほか監訳：グッドマン・ギルマン薬理書，第12版，2294-2297，廣川書店，東京，2013
- 3) 富士化学工業株式会社：安定性に関する資料(社内資料)

●文献請求先

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

日本ケミファ株式会社 安全管理部
〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目2番3号
TEL 0120-47-9321 03-3863-1225
FAX 03-3861-9567

販売元
日本ケミファ株式会社
東京都千代田区岩本町2丁目2-3

製造販売元
富士化学工業株式会社
富山県中新川郡上市町郷柿沢1